



# 中学校「社会」地理的分野の地理的技能の「地図の活用に関する技能」の指導について

藤崎, 和生

---

(Citation)

兵庫地理, 55:43-50

(Issue Date)

2010-03-31

(Resource Type)

journal article

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/90002472>



中学校「社会」地理的分野の地理的技能の  
「地図の活用に関する技能」の指導について

藤崎 和生

1. はじめに

高等学校で「地理」科目が選択科目になって久しい。「地理」の高等学校での近年の選択率（履修率）は50%<sup>1)</sup>程度とされ、過半の生徒は中学校だけで地理学習を終えることになる。しかも高等学校の新指導要領でも「地理」は選択科目と決定され、この状況はあと10年は続く。そのため、中学校の地理学習は今後もきわめて重要だといえる。それでは中学校の地理学習はどのような内容なのだろうか、何を重点として指導されているのだろうか。

現行の中学校学習指導要領（以下指導要領と表記）「社会」の地理的分野は「地理的技能」という用語が新しく使われ、従来と比べて特色ある内容となっている。「地理的技能」とは何か、その実状や課題などを高校生へのアンケート結果などから整理し、「地理情報の活用に関する技能」とともに「地理的技能」を構成する「地図の活用に関する技能」について、その指導法についてまとめてみた。

2. 中学校における地理学習

現行の中学校の「社会」は、指導要領によると地理的分野、歴史的分野、公民的分野の3分野に分かれており、生徒の多くは地理的分野を中学1年次と2年次で歴史的分野と併行して105単位時間学習する<sup>2)</sup>。指導要領がほぼ現行の形式になった、昭和33年版指導要領以降の指導要領について、「地理的分野」の目標と内容等は第1表の通りである。

目標と内容を比べてみると、その変遷から時代を読み取ることができ、興味深い。昭和44年版指導要領までは最初に郷土や身近な地域の学習からはじまっていたように、地理学習の第1の目標は日本国土の理解と発展に努める態度を養うことにあった。昭和52年版指導要領以降から世界とその諸地域を先に学習するようになり（世界地誌先習）、最初に世界の自然環境や世界の国々を学ぶようになった。これは小学校の「社会科」から世界の地理が外されたからであるが、国際化が進み、人の交流や「もの」の移動が盛んになりつつあったことの表れでもあろうし、地球環境が

第1表 指導要領の変遷

|    | 昭和33年                                                                                                                                                                                                                                                             | 昭和44年                                                                                                                                                                                                                                            | 昭和52年                                                                                                                                                            | 平成元年                                                                                                                                                                                   | 平成10年                                                                                                                                                                                                             | 平成20年                                                                                                                                                                                                             |
|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 目標 | (1) 郷土や日本における生活の特色を、他地域との比較・関連において明らかにし、郷土のわが国における地位やわが国の世界における地位を理解させ、郷土や国土に対する愛情を育て、わが国の発展に努力しようとする態度を養う。<br>(2) ～(4) 略<br>(5) 野外観察や調査などを行い、地理的事象に直接触れ、それを正しく観察したり考察したりする態度や能力を養う。<br>(6) 地図を読み、描き、これに親しませ、また、統計その他の資料を正しく取り扱わせて、いろいろな事象の実態、特色、傾向などを読み取る能力を育てる。 | (1) 日本や世界のさまざまな地域についての学習を通して、地理的な見方や考え方の基礎をつちかい、わが国土に対する広い視野に立った認識を養うとともに、国土を高度かつ合理的に利用することがたいせつであることを理解させ、わが国の発展に努力しようとする態度を育てる。<br>(2) ～(4) 略<br>(5) 地理的事象に直接触れてそれを正しく考察し、それを正しく観察すること、地図・統計その他の資料を適切に取り扱うこと、地図や図表を描くこと、報告をまとめることなどに必要な能力を育てる。 | (1) 日本や世界の様々な地域についての学習を通して、地理的な見方や考え方の基礎を培い、広い視野に立った我が国土に対する認識を養う。<br>(2) ～(4) 略<br>(5) 地理的事象に直接触れてそれを正しく考察することに必要の能力と、地理的事象を適切な資料に基づいて多面的に考察し公正に判断しようとする態度を育てる。 | (1) 世界を大観させる学習を背景に、日本の様々な地域についての理解を深めることにより、地理的な見方や考え方の基礎を培い、広い視野に立った我が国土に対する認識を養う。<br>(2) ～(4) 略<br>(5) 地域調査など具体的な活動を通して地理的事象に対する関心を高め、様々な資料を適切に選択、活用して地理的事象を多面的に考察し公正に判断する能力と態度を育てる。 | (1) 日本や世界の地理的事象に対する関心を高め、広い視野に立って我が国の国土の地帯の特色を考察し理解させ、地理的な見方や考え方の基礎を培い、我が国の国土及び世界の諸地域に関する認識を養う。<br>(2) ～(3) 略<br>(4) 地域調査など具体的な活動を通して地理的事象に対する関心を高め、様々な資料を適切に選択、活用して地理的事象を多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに適切に表現する能力や態度を育てる。 | (1) 日本や世界の地理的事象に対する関心を高め、広い視野に立って我が国の国土及び世界の諸地域の地帯の特色を考察し理解させ、地理的な見方や考え方の基礎を培い、我が国の国土及び世界の諸地域に関する地理的認識を養う。<br>(2) ～(3) 略<br>(4) 地域調査など具体的な活動を通して地理的事象に対する関心を高め、様々な資料を適切に選択、活用して地理的事象を多面的・多角的に考察し公正に表現する能力や態度を育てる。 |
| 内容 | (1) 郷土<br>(2) 日本の諸地域<br>(3) 全体としての日本<br>(4) 世界の諸地域<br>(5) 全体としての世界                                                                                                                                                                                                | (1) 身近な地域<br>(2) 日本とその諸地域<br>(3) 世界とその諸地域<br>(4) 世界の中の日本                                                                                                                                                                                         | (1) 世界とその諸地域<br>(2) 日本とその諸地域<br>(3) 世界の中の日本                                                                                                                      | (1) 世界とその諸地域<br>(2) 日本とその諸地域<br>(3) 国際社会における日本                                                                                                                                         | (1) 世界と日本の地域構成<br>(2) 地域の規模に応じた調査                                                                                                                                                                                 | (1) 世界の様々な地域<br>(2) 日本の様々な地域                                                                                                                                                                                      |

問題になってきたことの反映でもあらうとも読める。内容構成も平成 10 年版指導要領まで「…諸地域」の表記でわかるように日本と世界の「地誌学習」を中心におこなわれてきた。平成元年版指導要領からは、地域の精選と重点化の視点から 2, 3 の地域を取り上げ、その特色を理解させる「事例学習」が始まった。

現行の平成 10 年版指導要領では地域の厳選と学び方を学ぶ学習の充実がうたわれ、目標の(2)に「地域的特色をとらえるための視点や方法を身に付けさせる」と、基礎となる知識や調べ方・学び方を身に付けさせることに重点が置かれている。これは学校週 5 日制による授業時間数減に加え、「生きる力」をつけるとのことから「学び方を学ぶ」がキーワードになり、「内容知」より「方法知」に重点が置かれるようになったからであろう。そのため内容も従来の「…諸地域」で示される「地誌学習」から、「…地域構成」で示されるように世界や日本の地域構成を大観させるにとどめ、地域的特色をとらえさせ、地域の規模に応じた調べ方、学び方を身に付けさせるようにする、いわゆる「事例調査学習」が中心となり、それまでとは違う特色あるものになった。その指導要領に「地理的技能」という用語が初出する。

### 3. 地理的技能とは

上記のように指導要領には「地理的技能」は、平成 10 年版指導要領（以下現行指導要領と表記）に初出し、平成 24 年から全面实施される平成 20 年度版指導要領（以下新指導要領と表記）にも受け継がれている。歴史的分野や公民的分野には「歴史的技能」や「公民的技能」という用語は無く、地理的分野独自のものである。それでは「地理的技能」とは何をいうのであろうか。

現行指導要領本文では、「内容の取扱い」の項に、「ア 地理的な見方や考え方及び地図の読図や作図、景観写真の読み取りなど地理的技能を身に付けることができるよう系統性に留意して計画的に指導すること。また、地域に関する情報の収集、処理に当たっては、コンピュータや情報通

信ネットワークなどを積極的に活用するなどの工夫をすること。」（新指導要領も同じ文言あり）とあるので、「地理的技能」は「地図の読図や作図、景観写真の読み取りなど」を指している。しかし、現行学習指導要領解説は「地理的技能」について、「地理情報（地域に関する情報のことであり、地理的事象が読み取れたり、地域的特色に結び付く事象を見いだしたりすることができる資料のことをいう）の活用に関する技能と地図の活用に関する技能の二つに分けられる」としているので、本文後半の「地域に関する情報の収集、処理」も「地理情報の活用に関する技能」とされる「地理的技能」であると考えられる。

ところで、指導要領本文に「地理的技能」だけでなく、「景観写真」や「地理に関する情報」の文言が入ったのは上記のように現行指導要領からである。それ以前は「地図・統計その他の資料」（昭和 44 年度版指導要領）などと地図と統計以外はその他の資料と一括されていた。これは刊行された公的な、またはそれに準じた資料以外は入手が困難で、写真にしても小さな写真を簡単に拡大・提示する機器が普及していないなどの社会状況が背景にあった。しかし、現在はインターネットが普及し、日本だけでなく世界各地の様子が写真や動画などが簡単に手にはいる。しかもそれらはいづれのものか、処理されたものかなどの情報が無いものが多い。上記の文言を入れたねらいは全生徒が、地図や統計だけでなく様々な地理情報を収集し、適切に処理する「地理情報の活用に関する技能」を身に付けることが必要な社会への対応が課題になったことを意味している。

なお、指導要領解説は「地理的技能」を「地理情報の活用に関する技能」と「地図の活用に関する技能」の二つに分けたのは、「大きくみると、地図の活用に関する技能も地理情報の活用に関する技能に含まれる。しかし、地図は地理的事象を見だし、考察し、調査結果をまとめ、表現するといった地理学習の各過程において、一つの重要な手掛かりや手立て、表現方法となることから特に取り出している。」としており、「地図の活用

に関する技能」は、地理独自の方法で、「地理的  
技能」の基礎をなす技能になるものと理解できる  
ので、以下「地理的技能」は、主として「地図の  
活用に関する技能」について述べる。

#### 4. 地図に関する指導の変遷

「地理的技能」の基礎をなす「地図の活用に関  
する学習」の内容は目新しいものではない。昭和  
33年版指導要領の「目標」に地図と資料の活用の  
項目があるように、古くから中学校の地理学習の  
目標に取り上げられ、重要な学習内容であった。  
しかし、取扱い方には変遷がみられる。指導要領  
における地図の学習や取扱いの変遷については  
第2表にまとめた。

たとえば、昭和33年版指導要領の「内容」の  
「野外観察と調査」の項では「5万分の1地形図  
の読み方を現地調査で慣れさせる」など、具体的  
な記載がある。さらに「指導上の留意事項」では  
「地図の指導について留意すべきおもな事項」と  
して技能という用語はないが、各種分布図の読み  
取りなど多様な地図の指導と活用に触れており、

現行の指導要領解説の内容と大きな差はない。こ  
の内容は昭和44年版指導要領にも「内容の取扱  
い」の項に整理されて引き継がれた。しかし、昭  
和52年版指導要領以降は「目標」から「地図」  
は消え、「適切な資料（平成元年版指導要領以降  
は様々な資料と表記）」とされた。内容も「縮尺  
の大きな地図の読み方についても理解させなが  
ら観察や調査をさせ」となった。これは5万分の  
1より大縮尺の地形図や市街図、地図以外の多様  
な資料の入手が容易になったことの反映でもあ  
ろう。しかし、平成元年版指導要領は「縮尺の大  
きな地図や統計その他の資料に親しませ」となり、  
「読み方」という技能的な目標は示されなくなる  
など昭和52年版指導要領以降は、「地図」に関す  
る項目や指導の具体的記述は減少している。そし  
て突如、「地図」の活用は、平成10年版指導要領  
より、「地域的特色をとらえるための視点や方法  
を身に付けさせる。」目標（2）が新しく設定さ  
れ、内容の取扱いに「地理的技能」として復活し  
た。

それでは、なぜ現行指導要領で「方法を身に付

第2表 指導要領における地図の学習や取扱いの変遷

| 昭和33年                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 昭和44年                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 平成10年                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| (6) 地図の指導について留意すべきおもな事項は次のとおりである。（指導上の留意事項）<br>ア 地球の表面を平面の地図に表わすには、各種の投影法があり、それらはそれぞれ長所と短所をもっていることに気づかせる<br>イ 日本または世界の全国や地方図などの縮尺・方位やそれらの地図の記号をだいたい読解できるようにさせる。また、5万分の1程度の大きな縮尺の地図について、地図の記号、地表の起伏の表現法、方位・縮尺の示し方などを理解させ、その地図を現地と合わせて読めるようにさせる。<br>ウ 各種の分布図から、地理的事象や特色を読み取ることができるようにさせる。<br>エ 日本や世界のおもな地理的事象の所在を、地図と結びつけて理解する習慣を身に付けさせる。<br>オ 白地図にいろいろの地理的事象を記入したり、簡単な事象を地図に表わしたりすることができるようにさせる。<br>カ 日本や世界の各地における時事的なできごとを理解したり、遠足や修学旅行の計画を作成したりするためにも、常に地図を利用する態度や能力を育てる。 | (7) 地図については、次の事項を指導する必要がある。（内容の取扱い）<br>ア 地球の表面を平面上に表現した地図には、面積、形、角、方位などの条件のすべてを満足させるものはないことを理解させるとともに、各種の地図の特色や長所・短所に気づかせること。ただし、むずかしい投影法に立ち入ることなく、地図と地球儀とを比較するなどして、実証的に理解させること。<br>イ 日本または世界の全国や地方図などの縮尺、方位や地図記号をだいたい読解できるようにさせるとともに、縮尺の大小によって、表現されている内容やその精粗に差があることを理解させること。<br>ウ 5万分の1程度の縮尺の大きな地図について、地図記号、地表の起伏の表現法、方位、縮尺の示し方などを理解させ、その地図を現地と照合して読む能力を養うこと。<br>エ 各種の分布図から、地理的事象やその特色を読み取ることができるようにさせるとともに、地理的事象の所在を地図と結びつけて理解しようとする習慣を養うこと。<br>オ 簡単な地理的事象を地図に表現する能力を養うこと。<br>(8) 指導の全般にわたって、地図を読み、かつ描くこと、統計その他の資料を処理し、図表に表現すること、野外の観察と調査その他の学習の結果を報告にまとめることのような、作業的な学習をじゅうぶんに取り入れる必要がある。（内容の取扱い） | ② 地図の活用に関する技能（指導要領解説）<br>a 地形図や市街図、道路地図、案内書の地図などに慣れ親しみ、どこをどのように行けばよいのか、見知らぬ地域を地図を頼りにして訪ね歩く技能を身に付けること。<br>b 地図や地図帳に慣れ親しんで、この地名は日本のどこにあるのか、この人は世界のどの付近を訪ね歩いたのかなど、学習や日常生活の中で出てくる地名に関心をもち、その位置を確かめるようになること。<br>c ここにはどのような地理的事象がみられるのか、この地理的事象がなぜこの地域にみられるのか、既存の地図から地理的事象を読み取ったり、地理的事象を地図を通して追究しとらえたりする技能を身に付けること。<br>d この調査結果やこの統計は地図に表すことが可能かどうか、地図に表すとすればどう工夫すればよいか、地域の諸事象や情報に地図化の適否を判断し、適切に地図化する技能を身に付けること。<br>e 略地図を描く技能を身に付け、略地図で位置を示したり、略地図を使って日本や世界にみられる諸事象をとらえ、説明したりするようになること。 |

けさせる」が目標になり、「地理的技能」なる用語が使われ、「地図」の記述が増えたのであろうか。それは「中学校における地理学習」の項で述べたように、外からは「ゆとり教育」や「学校週5日制」にともなう授業時間減に対応するものでもあったが、内からも羅列的で知識偏重になりがちな、日本や世界の諸地域に関するこれまでの「地誌学習」への見直しがあった。この変化は平成元年版指導要領の「事例学習」から始まり、現行指導要領の「事例調査学習」へとつながった。しかし、平成24年から完全実施される、新指導要領では「地誌学習」が復活し、目標(2)は、「地域的特色をとらえるための視点や方法を身に付けさせる」から「とらえるための視点や方法を身に付けさせる」が消え、「地域的特色や地域の課題をとらえさせる」となった。

この間、改正された学校教育法にも、基礎的・基本的な知識・技能、思考力・判断力・表現力等及び学習意欲を重視し（学校教育法第30条第2項）とあり、中央教育審議会からも「基礎的・基本的な知識・技能の習得」が答申されたにもかかわらず、なぜ「技能の習得」を目指す「方法を身に付けさせる」「事例調査学習」は変更されねばならなかったのだろうか。

新指導要領解説には「(2)各分野の改訂の要点〔地理的分野〕」の項で目標(2)については、「世界と日本の諸地域の地域的特色を学び、身近な地域の調査の中では地域の課題を見いだす学習を行うこととしたことを踏まえ、従前の地域的特色をとらえるための視点や方法を身に付けさせることから、地域的特色や地域の課題をとらえることに主眼を置いた趣旨の文言に改めた」とし、学習内容の構成については「世界、日本それぞれの諸地域の地域的特色について学び、最後に調べ学習を行う構成となっている。このような構成としたのは、習得―活用―探究の考え方を基にしながら、学習内容や学習活動を段階的に発展、深化できるように配慮したためである」と説明している。が、その問題点や課題などを「地理的技能」の基礎となる「地図の活用に関する技能」について実施し

た生徒へのアンケート結果から、その現状を考察してみた。

## 5. アンケートから見た「地図の活用に関する技能」の現状

現行指導要領で学んできた生徒（兵庫県立長田高等学校2年生の地理選択者112人）へ「地理的技能」について、アンケート調査を実施した（2010年4月）。

ねらいは、地図の活用に関する技能に関する授業がどの程度おこなわれ、生徒が技能を身に付いたと考えているかを見るため、問は指導要領解説の「地図の活用に関する技能」に基づいて作成した。アンケートの問と結果については第3表の通りである。

結果は以下のように要約できる。

- ① 現行指導要領には特に言及のない地形図学習は全生徒が学習したと回答し、定着している。しかし、ほとんどが教室内でおこなわれ、実際に現地での読図などの活動はなされていない。同様のことは身近な地域の調査でも言える。
  - ・地形図学習は、多くは教科書掲載の図を活用して、作業（記号や傾斜の読み取り、距離の測定や断面図の作成など）や新旧地形図の比較などが主と思われる。それに比べ、地形図から扇状地などの地形の読み取り指導が少ないのは意外であった。
  - ・身近な地域の調査の学習は約6割がしたと答えているが、多くは副読本や教員作成の教材を通じてで、実際におこなったという回答は少ない。
  - ・身近な地域の調査の学習を補完するものとしての見学は学年行事などで約1/4の生徒が経験している。
- ② 統計地図等の主題図学習は「読み取りを習った」、「作成した」との回答が少なく、地形図学習に比べて定着していないと思われる。また、読み取りは自信が無いとの回答が多い。
- ③ 景観写真を用いた授業も、「ほとんどなかっ

第3表 地理アンケート集計

|                                                               |                        |                      |                      |                  |                   |                 |                   |           |  |
|---------------------------------------------------------------|------------------------|----------------------|----------------------|------------------|-------------------|-----------------|-------------------|-----------|--|
| 位置のわからない地名を地図帳の索引から見つけることができるか？<br>(単位は人)                     | できる                    | できない                 |                      |                  |                   |                 |                   |           |  |
|                                                               | 107                    | 5                    | (単位は人)               |                  |                   |                 |                   |           |  |
| 2万5千分の1や5万分の1の地形図を所有しているか？<br>(単位は人)                          | 71                     | 14                   | 27                   | (単位は人)           |                   |                 |                   |           |  |
| 地形図の読図学習の教材は？<br>(複数回答可、単位は人)                                 | 教科書に掲載されている地形図         | 身近な地域の副読本に掲載されている地形図 | 先生が作成したコピーやプリントした地形図 | しなかった            |                   |                 |                   |           |  |
|                                                               | 77                     | 47                   | 40                   | 0                |                   |                 |                   |           |  |
| 地形図の読図学習の内容は？<br>(複数回答可、単位は人)                                 | 記分の読取                  | 距離の測定                | 面積の測定                | 標高や傾斜の読          | 断面図の作成            | 地形の読取           | 細かい地形の読取          | 新旧の地形図を比較 |  |
|                                                               | 103                    | 98                   | 20                   | 105              | 99                | 67              | 19                | 87        |  |
| 授業で、地形図の読取などの学習のため、校外に出たことがあるか<br>(単位は人)                      | ある                     | 無い                   |                      |                  |                   |                 |                   |           |  |
|                                                               | 2                      | 110                  |                      |                  |                   |                 |                   |           |  |
| 種々の統計地図の学習について<br>(単位は人)                                      | 特色を習った                 | 習っていない               |                      |                  |                   |                 |                   |           |  |
|                                                               | 29                     | 83                   |                      |                  |                   |                 |                   |           |  |
| 種々の統計地図を読み取る学習について<br>(単位は人)                                  | 読取の方法などについて習った         | 習っていない               |                      |                  |                   |                 |                   |           |  |
|                                                               | 52                     | 60                   |                      |                  |                   |                 |                   |           |  |
| 種々の統計地図の読取について<br>(単位は人)                                      | 読み取れる                  | 読み取れるが、正しいか自信はない     | 読み取れない               |                  |                   |                 |                   |           |  |
|                                                               | 5                      | 60                   | 47                   |                  |                   |                 |                   |           |  |
| 統計地図を作製したことは<br>(単位は人)                                        | ある                     | 無い                   |                      |                  |                   |                 |                   |           |  |
|                                                               | 9                      | 103                  |                      |                  |                   |                 |                   |           |  |
| 風景などの写真から地理的な事柄を読み取る学習(授業)について<br>(単位は人)                      | 授業でよくした                | 授業で時々した              | ほとんどしなかった            | 全く無かった           |                   |                 |                   |           |  |
|                                                               | 2                      | 26                   | 55                   | 29               |                   |                 |                   |           |  |
| 身近な地域の学習(調査)について<br>(単位は人)                                    | 副読本でした                 | 先生自作の資料でした           | 夏休みなどの課題でした          | しなかった            |                   |                 |                   |           |  |
|                                                               | 50                     | 21                   | 8                    | 42               |                   |                 |                   |           |  |
| 身近な地域の見学などについて<br>(単位は人)                                      | 授業で見学に行った              | 学年で見学に行った            | 行かなかった               |                  |                   |                 |                   |           |  |
|                                                               | 5                      | 21                   | 86                   |                  |                   |                 |                   |           |  |
| 授業で、市単位や日本、世界の略図を描く学習があったか<br>(複数回答可、単位は人)                    | 世界と日本を描いた              | 世界を描いた               | 日本を描いた               | その他              | 無かった              |                 |                   |           |  |
|                                                               | 49                     | 24                   | 8                    | 3                | 30                |                 |                   |           |  |
| あなたが描ける略図は？<br>(複数回答可、単位は人)                                   | 家の近所                   | 神戸市                  | 兵庫県                  | 日本               | 世界                | 描けない            | うまく描けない           |           |  |
|                                                               | 23                     | 2                    | 6                    | 30               | 25                | 17              | 56                |           |  |
| 家や学校などへの行き方を人に教えるとき、どうしているか<br>(単位は人)                         | 略図を描く                  | ネットなどの地図をコピー         | 無回答                  |                  |                   |                 |                   |           |  |
|                                                               | 26                     | 81                   | 5                    |                  |                   |                 |                   |           |  |
| ノートやメモをとったり、まとめたりするとき、略図をよく活用するか<br>(単位は人)                    | よく使う                   | 時々使う                 | 使わない<br>使ったことが       |                  |                   |                 |                   |           |  |
|                                                               | 5                      | 61                   | 46                   |                  |                   |                 |                   |           |  |
| 身に付けるべきだと思う地理的技能をスキルを順位付けすると(数字は3位まで選ばせ、1位3点、2位2点、3位1点にした合計点) | 日本や世界の略図が描け、位置を示したりできる | 見知らぬ地域の地図を頼りに訪ね歩ける   | 地形図を見て地形や土地利用等が読み取れる | 現在地を地形図で示すことができる | 統計などの資料から統計地図を描ける | 統計地図を読み取ることができる | 知らない地名の位置を地図帳で探せる |           |  |
|                                                               | 217                    | 366                  | 293                  | 160              | 172               | 277             | 134               |           |  |

た」、「全くなかった」とした回答が多く、積極的に指導している例は少ないのではないと思われる。

- ④ 略図については描く授業があったとの回答が多い。世界と日本を描いた授業が多く、そのためか、描ける略図は世界、日本、家の近所がほぼ同数で多い。しかし、最も多かった回答はうまく描けないであった。

- ⑤ 場所を示したり、ノートしたりするときに略

図を活用するかの間にはしない回答が多い。理由を付記した回答は少数であるが、使う機会がない、下手だから、描くのにかかる時間の回答が見られた。

- ⑥ 生徒が必要と考える「地理的技能」は、授業では教えることがほとんど無い「見知らぬ地域を地図を頼りに訪ね歩ける」実用的な技能が最も多かった。地形図を見て地形や土地利用等が読み取れる技能、統計地図を読み取る

ことができる技能は大学受験を意識した結果と考えられる。「知らない地名の位置を地図帳で探せる」が最も少ないのはほとんどの生徒ができるからであろう。

以上のことから、地理的技能に関するアンケート結果を平均的な生徒のモノログでまとめると、以下になるだろう。

「中学校の地理の地図学習で地形図の学習があった。教科書や副読本の図をつかって断面図などを描いたり、古い地形図と比較したのが印象に残っている。統計地図などの主題図は特に習ったという印象があまりない。それだからというわけではないが、統計地図などの読図は自信がない。授業で写真をよく使ったかといわれてもあまり覚えていない。授業時間に教室の外へ出て地図の読み方を習ったことはないし、身近な地域の調査の学習も副読本を教材にして教室でした。隣の中学校は学年行事で地域の見学に行ったと聞いたが、略地図を描く授業はあった。世界や日本の白地図を書いたが、私はうまく描けない。だけど世界や日本の略図は描く必要もないし、友達の家など近い範囲も携帯サイトの地図で教えあうので描くことはあまり無い。必要な地理的技能を3つあげろといわれれば、やっぱり旅行などで地図を持って歩き回れる技能と、入試にでるので地形図と統計地図の読み取りだと思う。」

## 6. アンケート結果から見た課題

現行指導要領以前と対比できる資料がないので印象になるが、アンケート結果からは予想以上に景観写真の読み取りなどを含む「方法を身に付けさせる」「地図の活用に関する技能」学習がおこなわれていない、おこなわれていても中途半端なものになっているのではないかと思われ、生徒に技能が身に付いていないと思えた。生徒は学習してから2年以上のブランクがあり、同じ中学校卒業生間でも矛盾した回答があることなどから、授業で習った事を忘れて回答しているケースも多いと思われ、回答結果は中学校での授業を正しく示しているとは言えないが、大体の傾向は出て

いると思われる。

景観写真の読み取りなどは、古くから指導されている地形図の学習にくらべ、指導法などが定着していないことなど個々に原因があげられようが、現行指導要領の「地図の活用に関する技能」学習が効果をあげていない大きな原因は次の4点にまとめられる。

① 技能習得を目標とする授業は、個人差が大きい。知識伝達が中心の授業などに比べて指導が難しく時間がかかること。

地形図の場合は記号の読み取りや距離や標高の計測など結論は出しやすいが、主題図や景観写真は様々に読み取れる。到達すべき目標は技能を活用して地域的特色を捉えさせることにある。教員が意図した結論にたどりつくため、授業時間数の制約から技能について徹底しないまま授業を進め、従来通り、地域的特色を知識として教える授業にならざるをえないが多かったと思われる。

② 「方法を身に付けさせ」て「地域的特色をとらえる」学習は中学1・2年生にとっては難しいこと。

「平成15年度小・中学校教育課程実施状況調査質問紙調査集計結果・社会」によると、中学1年生の「地図や統計資料などを活用して、都道府県の地域的特色を調べる学習」は37.7%がよくわかった、36.3%がよくわからなかったと回答し、中学2年生の「地図や統計資料などを活用して、世界の国々の地域的特色を調べる学習」は33.8%がよくわかった、42.0%がよくわからなかったと回答しており、否定的な回答の割合が、肯定的な回答とほぼ同じか、上回っている。特に「地図や統計資料などを活用して、都道府県の地域的特色を調べる学習」は教師対象の調査においても「生徒にとって理解しにくい」が50.8%、生徒が興味を持ちにくい」が41.0%と、否定的な回答の割合が肯定的な回答の割合を大きく上回っている。このためか調べる学習が「きらいだった」と回答した割合は1年45.7%、2年

49.5%となっており、否定的な回答の割合が大きい。ところが地域の歴史の「調べ学習」は「きらいだった」が 38.1%で、このことは中学校 1・2 年生での地理分野の「調べ学習」の困難さを示している。

- ③ 「方法を身に付けさせ」ながら「地域的特色をとらえる」学習は指導目標が 2 つあるため、生徒が混乱しやすいこと。

「統計地図を読み取ることができるか」の問は、「読み取りを習った」と答えたグループ(52 人)より「習っていない」と答えたグループ(60 人)の方が多い。中学校の授業で「読み取り」学習を全くしなかったはずはなく、習ったことを忘れている生徒が多いことを示していると思われる。授業は「調べ方を身に付け」、「地域的特色を読み取らせ」理解させるという 2 つの目標があるため、資料から日本や世界の地域的特色を読み取らせる方法を教え、指示しても、混乱して目標は何かを把握できない、していない生徒は多く、読み取り結果のみが記憶に残り、方法についてはほとんど印象に残っていないため「習っていない」と思っている生徒も多いと思われる。

- ④ 技能習得指導の到達目標の設定や評価が難しいこと。

地形図学習が定着したのは、これまでの長い実践の積み重ねもあるが、距離の計測などの作業は正誤が明白で、指導手順を示しやすく、中学生への指導に適した内容が多いからであろう。アンケートの結果にあるように、地形の読み取りを習ったとの回答が少ないのは、生徒が忘れたのではなく、事例となる調査対象の身近な地域の地形は複雑なため、中学 1 年段階では難しいからと省いた可能性もある。まして統計地図などの主題図の読図は、読図する者の力に応じて読図内容は違い、正解は 1 つではない事の方が多い。どこまで読み取ればよいのか、アンケート結果に、統計地図は読み取れるが自信はないと答えた回答が多いのはそのためであろう。中学生段階で

はどこまで読めればよいのか、到達目標の基準が明確でないことが指導を難しくしている。評価についても同様のことが言える。たとえば略図の描画について、描かない理由を書いた回答は少なかったが、その中では「下手だから」という回答が多かった。略図の要件を満たしているかどうかの評価がなされなかったため、上手、下手の自己評価がなされているのであろう。

## 7. これからの地図の活用に関する技能の指導

かつては学校で得た情報が大きな割合を占めたが、マスコミやインターネットなどから生の情報が学校を経ずに直接に入るようになり、その量も膨大なものになり、学校で学ぶことより多くの情報が生徒には入るようになり、現在はその情報を吟味、処理する能力が求められている。現行指導要領は「地図の読図や作図、景観写真の読み取りなど地理的技能を身に付けることができるよう系統性に留意して計画的に指導」し、「地域的特色をとらえるための視点や方法を身に付けさせる」ことを目標の 1 つにおいた特色あるものであり、このような社会のニーズに答えるものであった。しかし、上記のアンケート結果からは十分な成果をあげているとは言えない。最大の原因は中学 1・2 年生の知識水準や発達段階に現行指導要領の「調べ学習」とがあわなかったことであろう。新指導要領で「地誌学習」が復活したのも当然であろう。しかし、地図を活用して処理する「地理的技能」は必要である身に付けるべき技能であるし、「地図や統計資料などを活用して、世界の国々の地域的特色を調べる学習」は「普段の生活や社会生活で役に立つと思うか」の間に 43.4%の生徒が役に立つと答え、思わないとの 27.9%を引き離している（「平成 15 年度教育課程実施状況調査教科別分析と改善点中学校社会」）ように多くの生徒も認めている。それでは地図の活用に関する技能についてどのようにすれば身に付く指導となり得るのか、提言してまとめとする。

- ① 中学生の発達段階にあった事例を選択し、指



導目標を意識させ、到達目標を示して指導するアンケートの「統計地図を読み取ることができるか」の問を、「読み取りを習った」と答えたグループ(52人)と「習っていない」と答えたグループ(60人)に分けて、クロス集計してみた。結果は、「できる」と答えた全員(5人)と、「読み取れるが自信はない」と答えた生徒の75%(45人)は「読み取りを習った」と答えたグループに属し、「習っていない=できない」「習った=できる」という相関が強くみられた。公立中学校の授業内容にはそれほど大きな差がなく、読み取りは教えているはずなので、これは授業で「今、読み取り方法を習っている」と意識させたかどうかの差が出たとも考えられる。すなわち指導目標を意識させることは効果がある。また、地理学習が最後になる生徒に対し、どこまでの技能まで到達させるか、到達目標を示しての評価も工夫して指導する。

## ② 技能が役に立つことを示す。

略図の描画について、描かない理由を書いた回答に「使う機会がない」など必要性がないとの回答もあった。たしかにインターネットの普及などで略図を使う機会は減った。そのため回答のように略図は授業で描くだけになってしまっている。略図を描く授業で終わらず、次の授業は描いた略図を活用するなど、具体的に略図の使い方をわからせるよう指導法を工夫する。

## 注

- 1)たとえば「2005 日本地理学会地理教育専門部会報告」は教科書採択数より53.5%としている。
- 2)学校週5日制の実施もあって、減少している。昭和52年版指導要領では140単位時間であった。

## 参考文献

国立教育政策研究所教育課程研究センター(2005):平成15年度小・中学校教育課程実施状況調査質問紙調査集計結果・社会-, pp217

村山朝子(2007):社会科のなかで地理教育を考える, E-journal GEO Vol.2 pp60-69

文部省(1959):中学校社会指導書, 実教出版, 310p.

文部省(1970):中学校指導書社会編, 大阪書籍, 448p.

文部省(1978):中学校指導書社会編, 大阪書籍, 202p.

文部省(1989):中学校指導書社会編, 大阪書籍, 173p.

文部省(1999):中学校学習指導要領解説-社会編-, 大阪書籍, 208p.

文部科学省(2008):中学校学習指導要領解説社会編, 日本文教出版, pp161

吉田 剛(2008):中学校学習指導要領社会における地理の見方・考え方の潮流, 宮城教育大学紀要第43巻 pp43-59

吉水裕也(2007):「景観」を鍵概念とした地理的技能, 岐阜聖徳学園大学紀要教育学部編, pp29-41

(ふじさき かずお・県長田高)